

2012年 事業報告書

【事業名】ケニア赤十字社地域保健強化事業

【事業地】ケニア共和国 ガルバチューラ県
(旧イシオロ県) 17 地区

【事業期間】2007年11月～2012年12月

【事業費 (2012年)】 2,080 万円

【事業目的】新生児特有の病気および感染症 (マラリア、下痢症、肺炎、その他予防接種で予防可能な疾病) による5歳未満児の疾病及び死亡率の減少に貢献する。



【事業目標】地域に根付いて活動する、保健省コミュニティヘルス普及員 (CHEW) やコミュニティヘルスワーカー (CHW) のネットワーク強化を通じて、住民の基礎保健サービスへのアクセスが向上する。

【活動内容】

1. 地域住民の健康に関する行動変容の普及

(1) コミュニティ・ユニット (CU) の形成と強化

ケニア保健省は、保健医療サービスへのアクセス向上により、国民の健康状態を改善することを目標とし、「地域保健戦略」を推進している。ケニア国内で提供される保健サービスは6段階（レベル1はコミュニティ、2は簡易診療所、3は診療所、4は県立病院、5は州立病院、6は国立病院）に分けられており、各レベルで提供するサービスは異なる。

同戦略ではレベル1に重点を置いており、基礎的な保健サービスを提供するコミュニティの能力強化によって、住民が健康について課題意識を持ち、健康状態の改善、疾病の予防に向けて行動することを目指している。

地域保健戦略では、住民5,000人につき1つのCUを形成し、このユニットの中心的な役割を担うコミュニティヘルスワーカー¹ (CHW: Community Health Worker) とそれを指導する保健省コミュニティヘルス普及員 (CHEW: Community Health Extension Worker) といった人材を育成することで、レベル1の保健サービスが強化されることとしている。

このような地域保健戦略に基づき、本事業では2011年度、3地区（ガファルサ、モドガシェ、セリチヨ）にてCUを形成した。2012年度は3番目に形成されたモドガシェ地区CUのコミュニティヘルスワーカー (CHW) 20人、保健普及員 (CHEW) 2人への研修を実施した。住民11人で形成される地域保健委員会の形成も進み、3地区11委員会、

¹ 地区のボランティアで構成される。

合計 33 委員会が CU の能力強化に関する研修を受講した。また、60 人のボランティアが各 CU で担当する世帯（各地区 20 世帯）が確定され、登録作業が進んでいる。

（2）コミュニティヘルスワーカー（CHW）への研修

2012 年は延べ 104 人の CHW が研修を受講した。保健省が推進する地域保健戦略に関する説明、保健委員会の進め方、救急法の再確認等の内容で、コミュニティの能力開発や緊急事態への対応に役立つことが期待される。事業対象地域のガファルサ、ベルゲッシュ、ムチョロ、コンボラでは感染症の発生数が低下したとの報告があり、CHW の貢献によるコミュニティの知識向上が見られる。



研修を受けるコミュニティヘルスワーカー

（3）健康教育の普及



コミュニティ集会で CHW の話を聞く住民

2012 年度も引き続き健康教育を実施し、98 人のボランティアが医療施設、コミュニティ集会、各家庭にて講座を 780 回行った。内容は多岐にわたり、産前ケア、ワクチン、マラリア予防、水質管理、衛生促進、母乳育児と子どもの栄養等を扱った。また、マラリア対策のため殺虫剤塗布済蚊帳 600 帳が妊産婦や社会的弱者へ配布された。

（4）衛生教育の普及

2012 年は 68 回の衛生講座を開催し、1,940 人の住民やボランティアが参加した。また、6 月 30 日に開催された環境の日イベントでは、出席した行政機関、NGO も地域住民やケニア赤十字社スタッフ、ボランティアとともに衛生講座に参加し、活動を周知する良い機会となった。



衛生活動の一環として清掃をする住民

（5）母子保健キャンペーン

2012年4月30日から5月12日と11月3日から21日の期間、母子保健キャンペーンが事業対象17地区で開催された。CHWらが各家庭を巡回し、ビタミンA摂取、駆虫、蚊帳の使用、産前検診、医療施設での出産、母子への予防接種の重要性について啓発した。キャンペーン中、2,546人の女性と4,712人の子どもがこのサービスを受けた。

（6）巡回診療

ガルバチューラ県保健局と協力して、巡回診療を月に1回実施した。対象地は、事業対象17地区のうち、保健医療施設が存在しない7地区である。巡回診療によって継続的な予防接種や、女性への産前産後ケア、診察した患者へのフォローアップ等が可能となっている。2012年は次頁図のようなサービスを提供した。

巡回診療はクリニックオフィサー（現地では医師に準じる資格）、看護師、栄養士（ボランティア）、記録係（ボランティア）、薬剤師（ボランティア）、公衆衛生オフィサーがチームとなって活動した。

また、巡回診療で使用する医薬品は保健省が用意するが、本事業でその一部を支援した。



巡回診療を受ける住民の登録をするスタッフ



子どもへのワクチン接種

2012年巡回診療の主な実績
予防接種
<ul style="list-style-type: none"> ・1,437人の1歳未満児への予防接種 ・生後9ヶ月までに受けるべき予防接種（BCG、三種混合、インフルエンザ菌、B型肝炎、ポリオ、肺炎球菌、麻疹）を91人が完了
診療
<ul style="list-style-type: none"> ・受診者は6,109人（1,870名の5歳以下の幼児を含む）
栄養状態検査
<ul style="list-style-type: none"> ・5歳未満児と妊婦を対象に実施
栄養補給
<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦に対する葉酸と鉄分の補給 ・554人の子どもへのビタミンA補給
マラリア、感染症対策
<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤塗布済みの蚊帳600帳を妊産婦へ配布 ・蚊帳の適切な使用法について指導
健康教育
<ul style="list-style-type: none"> ・マラリアに関する知識を普及し、マラリアの症状と感染予防法、抑制法（マラリア原虫を媒介するハマダラ蚊の発生を抑制するために、排水の処理や防蚊剤の使用）に関する住民の理解を向上
妊産婦検診
<ul style="list-style-type: none"> ・1,360人の妊婦が受診 ・破傷風ワクチンの接種 ・ビタミンAの提供
寄生虫の駆除
<ul style="list-style-type: none"> ・寄生虫駆虫剤の投与 ・浄水剤34,596錠の配布
家族計画指導
<ul style="list-style-type: none"> ・コンドームの配布 ・他の避妊方法について指導

2. 保健医療施設の機能強化

（1）ガルバチューラ県立病院手術棟建設

昨年、ケニア国内の開発事業の支援機関である選挙区開発基金（CDF: Constituency Development Fund）との共同出資でガルバチューラ県立病院の手術棟建設を支援した。同手術棟は既に保健省へ引き渡され、2012年中には稼働する予定であったが、施工後検査により、修復必要箇所が指摘されたため、対応を協議している

また、保健省が医療機材の整備を実施する予定であったが、財政的な理由により手術室ランプ以外は設置が延期されており、医師は配属されているものの、手術室が稼働していない状態が続いている。

（2）無線網の整備

事業地内の各村からガルバチューラ県立病院への患者搬送体制を強化するため、2009

年より診療所に無線機を整備している。2012年は保健局救急車両に1台、バダナ村診療所に1台を設置した。これまでの合計は15台。

（3）県保健局車両の整備

県内における医療施設間の患者搬送に使用する救急車両の修理や燃料の一部を支援し、稼働率を向上させた。

3. ケニア赤十字社の事業実施能力の強化

（1）事業評価

ケニア赤十字社による定期的なモニタリングに加え、2012年は事業第1期終了に伴い、日本赤十字社本社より、本事業担当者が事業評価のため現地を視察、関係者との面談を行い、事業進捗を確認した。事業実施により、住民の保健サービスへのアクセス状況が改善し、乳幼児の予防接種率の向上等の成果を確認すると同時に、5歳未満幼児死亡率や妊産婦死亡率が依然と高いことを把握した。終了時評価調査の結果を日本赤十字社にて協議したところ、2013年以降も第2期として本事業を継続する決定がなされている。



事業担当スタッフ

（2）定期連絡会

本事業スタッフや事業対象地17村で活動するボランティアリーダーが参加し、四半期ごとに会議が開催され、事業進捗状況や成果、経験、課題が共有された。

（3）ケニア赤十字社イシオロ県、ガルバチューラ県支部運営補助

2011年、本事業にてイシオロ県支部を新設した。2012年はイシオロ県支部、ガルバチューラ支部の活動に際し、交通費、バイク整備、スタッフ給与、文房具、通信費を補助した。

【課題】

- ・巡回診療について、ケニア政府から支給されるはずの医薬品が不足している。
- ・手術棟用の医療器材が未整備のため、手術が必要な患者は現在もイシオロやマウア地区的病院へ移送されている。経済的にもコストが高い上に、人命にとっても危険である。
- ・対象地域は遊牧民が多いため、ワクチンや妊産婦のフォローアップが難しい。

以上